

## 令和5年1月 発地別延べ宿泊者数割合

(単位：人泊、%)

### 【国内】

	県内	福岡県	その他九州	四国	中国	近畿	中部	関東	東北・北海道	国内計
令和5年1月(速報値)	39,215	72,382	36,273	5,447	15,791	23,234	9,741	48,343	4,008	254,434
令和4年1月(速報値)	41,340	79,751	34,434	5,583	15,229	22,680	8,539	37,785	3,225	248,566
<b>前年同月比</b>	<b>94.9</b>	<b>90.8</b>	<b>105.3</b>	<b>97.6</b>	<b>103.7</b>	<b>102.4</b>	<b>114.1</b>	<b>127.9</b>	<b>124.3</b>	<b>102.4</b>
2019年1月(確報値)	54,766	83,612	44,806	8,550	22,153	22,718	9,400	41,582	3,983	291,570
<b>2019年同月比</b>	<b>71.6</b>	<b>86.6</b>	<b>81.0</b>	<b>63.7</b>	<b>71.3</b>	<b>102.3</b>	<b>103.6</b>	<b>116.3</b>	<b>100.6</b>	<b>87.3</b>
令和4年12月(速報値)	52,777	85,324	46,664	6,775	19,262	27,705	12,971	51,417	4,314	307,209
<b>前月比</b>	<b>74.3</b>	<b>84.8</b>	<b>77.7</b>	<b>80.4</b>	<b>82.0</b>	<b>83.9</b>	<b>75.1</b>	<b>94.0</b>	<b>92.9</b>	<b>82.8</b>

### 【国外】

	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他アジア	欧米豪その他	外国小計
令和5年1月(速報値)	32,195	644	2,868	5,363	2,692	1,634	1,191	46,587
令和4年1月(速報値)	176	10	1	9	7	1,126	528	1,857
<b>前年同月比</b>	<b>18292.6</b>	<b>6440.0</b>	<b>-</b>	<b>59588.9</b>	<b>-</b>	<b>145.1</b>	<b>225.6</b>	<b>2508.7</b>
2019年1月(確報値)	64,569	8,191	5,034	12,010	959	1,225	1,022	93,010
<b>2019年同月比</b>	<b>49.9</b>	<b>7.9</b>	<b>57.0</b>	<b>44.7</b>	<b>280.7</b>	<b>133.4</b>	<b>116.5</b>	<b>50.1</b>
令和4年12月(速報値)	25,656	713	4,514	2,490	4,050	2,149	1,555	41,127
<b>前月比</b>	<b>125.5</b>	<b>90.3</b>	<b>63.5</b>	<b>215.4</b>	<b>66.5</b>	<b>76.0</b>	<b>76.6</b>	<b>113.3</b>

### 【全体】

	合計
令和5年1月(速報値)	301,021
令和4年1月(速報値)	250,423
<b>前年同月比</b>	<b>120.2</b>
2019年1月(確報値)	384,580
<b>2019年同月比</b>	<b>78.3</b>
令和4年12月(速報値)	348,336
<b>前月比</b>	<b>86.4</b>

- ①調査対象施設は従業員数10人以上の全施設(189施設 令和5年1月時点)
- ②2019年の数値については、上記①の施設数をもとに推計しています。
- ③発地別延べ宿泊者数は、速報の公表時に大きく変更されることがあります。

出典：大分県観光統計調査

#### <傾向・分析>

- ・国内の延べ宿泊者数は、前月比82.8%、前年同月比102.4%、コロナ禍前の2019年同月比は87.3%。例年1月は閑散期のため前月比はマイナスとなったが、特に関東・近畿などの遠方からの宿泊は前年比、コロナ前の2019年度比共に増加している。
  - ・国外の延べ宿泊者数は、令和4年10月11日より入国者数の上限撤廃など水際対策が大幅に緩和されたことなどにより前年同月比2508.7%、前月比も113.3%と引き続き増加傾向が続いている。特にタイからの宿泊者数はコロナ禍前の2019年と比べても280.7%、その他アジアは133.4%、欧米豪その他も116.5%と増加しているものの、中国からの入国者には1月以降も水際措置を講じていることなどから国外からの延べ宿泊者数は2019年同月比は50.1%となっている。
  - ・全体の延べ宿泊者数は、前月比86.4%、前年同月比120.2%、コロナ禍前の令和元年同月比は78.3%となっている。
- ※2019年7月頃より、日韓関係の悪化により韓国からの訪日客が減少。12月の宿泊統計では2019年12月と比較していたためコロナ禍前よりも増となっていた。

## 令和5年1月の宿泊客等の動向 (令和4年1月～12月速報、令和5年1月速報)

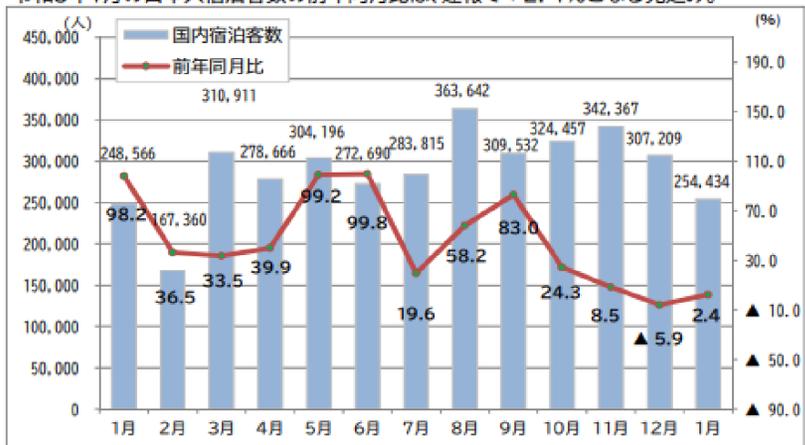
### (1) 宿泊客の動向

令和5年1月の宿泊客数の前年同月比は、速報で+20.2%となる見込み。



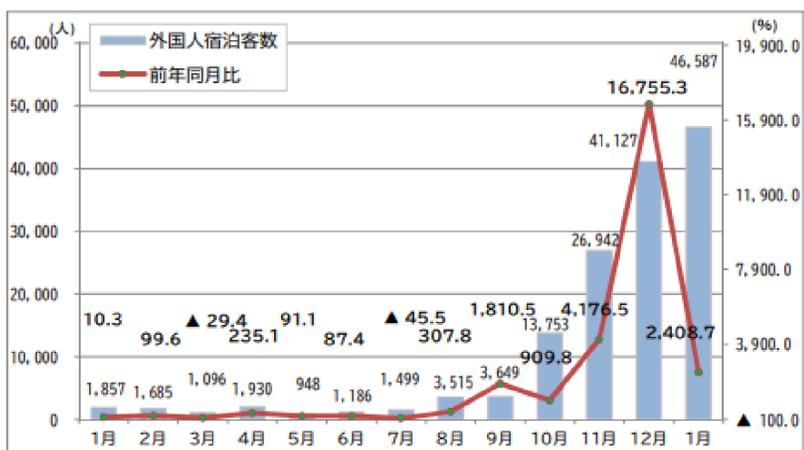
### (1)-①日本人宿泊客の動向

令和5年1月の日本人宿泊客数の前年同月比は、速報で+2.4%となる見込み。



### (1)-②外国人宿泊客の動向

令和5年1月の外国人宿泊客数の前年同月比は、速報で+2408.7%となる見込み。



### (2) 有料観光施設(入場客)の動向

令和5年1月の有料観光施設(入場客)の前年同月比は、速報で+42.7%となる見込み。

(調査対象施設27施設)

前年比 屋内施設+91.0% 屋外施設+23.3%



※観光施設の対前年比は、休業業・未提出施設を除いて算出しているため、過去に公表している値と比較すると一致しない場合があります。

出典：大分県観光統計調査

#### <傾向・分析>

- ・日本人宿泊客は、昨年1月末～2月末まで大分県でもまん延防止等重点措置が発令されていたことなどから、減少傾向となった。  
3月に入り全国各地でもまん延防止等重点措置が解除されたことなどから宿泊者数は増加し、4月・5月・6月は行動制限がなかったことなどから高水準が続いた。  
7月・8月は感染者数こそ急増したものの、特に8月は3年ぶりに全国的に行動制限がなかった夏休みシーズンであったことなどから宿泊者数は増加傾向が続き、  
10月以降は全国を対象とした旅行支援の影響などから高水準が続いている。
- ・外国人宿泊客は、6月10日より観光目的の入国が条件付きで解除された後徐々に戻りが見られ、10月には入国者数上限撤廃など更に水際対策が緩和されたことにより増加傾向が続く。
- ・全体においては、入国制限の緩和や旅行支援の影響などからインバウンドを含め徐々にコロナ禍前の水準に戻つつある。